

第15回

学生が
選んだ

授業からもっと学びたい、もっと学んでほしい
—そんな学生と教員の思いを近づけるために

「ベストティーチャー」発表！

2020年度の「学生による授業評価アンケート」の結果から、各学科で総合的評価がもっとも高い先生を選びました。

選ばれた先生方の声をお届けいたします。



Susan Jones 先生

● 英文学科

学生たちに自分らしい翻訳ができたときの満足感を味わってほしいです。

* Translation: Theory & Technique など



川瀬 雅也 先生

● 総合文化学科

普段から心がけているのは、喩えを多く用いて説明し、抽象的な概念についての具体的なイメージをもってもらえるようにすることです。

* 担当科目: 哲学、倫理学 など



古田 昌子 先生

● 音楽学科

人として学んだすべてのことを、皆さんの目線に立つことを忘れることなく、伝えていきたいと思います。

* 担当科目: 声楽Major、声楽Minor、宗教曲 など



小林 知博 先生

● 心理・行動科学科

大学で学ぶことの醍醐味の一つは、様々な考えや価値感の共有を通じた刺激のし合いにあると思います。

* 担当科目: 社会心理学、心理行動科学実験実習 など



横田 弘文 先生

● 環境・バイオサイエンス学科

実習や講義を通じた学びが、実は日常生活と密接に繋がっていることに気づかされると、皆さんの好奇心が掻き立てられ、その先を学びたいという意欲が芽生えると思います。

* 担当科目: 生態毒性学 など

先生方のコメントは、裏面をご覧ください。

私

の

授

業

風

景

学

生

が

選

ん

だ

べ

ス

ト

テ

ィ

ー

チ

ャ

ー

第

15

回

神

戸

女

学

院

大

学

授

業

論

2020年度の「学生による授業評価アンケート」の結果から、各学科で総合的評価がもっとも高い先生を選びました。神戸女学院大学では、授業からもっと学びたい、もっと学んでほしい、学生と教員のそんな思いを近づけることをめざしています。

神戸女学院大学 FDセンター(学長室)

英文学科

Susan JONES 先生



翻訳者は、外国語のテキストと新しい読者との間の触媒であり、誰でも自分の経験や解釈を翻訳に反映させます。ですから、良い翻訳者になるということは、新しい分野の知識に好奇心を持ち、新しい経験を受け入れることなのです。学生たちがそれぞれの個性を活かしたユニークな解釈で翻訳をしているのを見るのは、私にとっても楽しいことです。自分らしい翻訳ができたときの満足感を味わってほしいと思います。

総合文化学科

川瀬 雅也 先生



哲学・倫理学が問題にするのは、私たちの具体的体験や社会の現実的な事象ではなく、むしろ、人間性や社会性を本質的に規定する諸概念です。しかし、これらの抽象的な概念を、学生のみなさんに、〈腑に落ちる〉仕方で納得してもらうのは容易なことではありません。そこで、私が普段から心がけているのは、喩えを多く用いて説明し、抽象的な概念についての具体的なイメージをもってもらえるようにすることです。そんなことで、最近では、喩えを考えるのが趣味になり、また特技にさえなっています。

音楽学科

古田 昌子 先生



この度「学生が選んだベストティーチャー」に選ばれましたことを大変光栄に思います。私が授業を通して皆さんに伝えたいことは、演奏するためのHow toだけではありません。まず自分と向き合うこと。何が好きなのか、やりたいことは何なのか。そして自分の思いを表現することの大切さ。そのうえで働きかけた相手からの応えを受けて場を共有することの喜び。長年の舞台人としての経験を通して人として学んだすべてのことを、皆さんの目線に立つことを忘れることなく、伝えていきたいと思っています。

心理・行動科学科

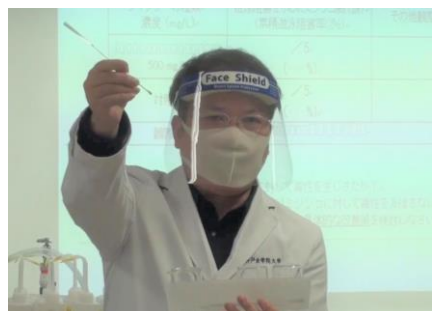
小林 知博 先生



2020年度はコロナ禍で遠隔授業となり、学生の皆さんはもちろん教員にとっても、授業方法について戸惑いと試行錯誤の連続となりました。特に講義科目は一方向＋自宅受講だと味気ないと思い、毎回課していた課題「授業内容と関連して自分なりに考えたこと」の3割ほどを翌週紹介しそれらへの私からのコメントをつけたり受講生の反応がとても良かったです。大学で学ぶことの醍醐味の一つは、様々な考えや価値感の共有を通じた刺激のし合いにあると思います。対面授業の数はまだ少ないですが、学生の皆さんには、遠隔授業でも意見交換の機会があれば積極的に参加し、学びを楽しんでもらいたいです。

環境・バイオサイエンス学科

横田 弘文 先生



実習や講義を通じた学びが、実は日常生活と密接に繋がっていることに気づかされると、皆さんの好奇心が掻き立てられ、その先を学びたいという意欲が芽生えると思います。そういう実習や講義になるように常に心がけています。私が教える毒性学は、トキシコロジスト(毒性専門家)を育てるためではなく、皆さんに、毒性学の視点から身の回りの事物を正當に怖がる術を身につけてもらうことを主眼に置いています。学部学科を問わず多くの皆さんに学んでほしいと願っています。

※掲載写真には、過年度に撮影したものも含まれます。